

NO. 126

泉南走ろう会

連絡先 泉南スポーツ社
0724(83)4653

千亀利マラソンに参加して

栄光と挫折マラソン完走ならず

会長 遠健三

いふこの日が来るのがわかっていた。五十才代ならぼんやりしない制限タイム四時間であるが、六十才代となるときつかった。カ一関門で通過ならず収容車に乗せられる。

栄光と挫折、いまでもフルマラソンに二十回程参加しているが、台湾のフルマラソンを除いて完走してきた。台湾のシウクは昨年の千亀利マラソン完走で復活したかに見えたが年には勝てなかったか？

十年前にマラソンを始めた同年代のラン友がこのころ、フルマラソンに顔を合わす事が無い。いつかの日がある、フルマラソン完走は無理なのである。沿道の応援の人達におじいちゃん頑張り〜の声援を受け、またもうマラソンにこれで終わりだな、後もう走って来る人か少ないとの声。自分がラストの位置を走っているのだ、自分には根生がある、粘りがある、三十キロでも四十キロでも走れる。これが駄目である。関門

を制限時間内に通過せねばならないの。スピードが出ない。十キロ、五十六分、五十五分の関門通過ならず残念、シウク。涙も出ない、呆然として収容車の人となる。

十一年間フルマラソン〜と考えると、神経が疲れたよ、何処かで聞いたような声(中山選手である)

後はわが走ろう会メンバーの完走を祈るのみだ。結果は石橋マラソン評論家解説者によれば、今回の走ろう会は一部の人を除いて惨憺たるものである。三十キロの関門までようこそ者から完走したことはしたがるのが遅い、途中で歩くわ、かスズドと言ってバナナにパクつく者から、ごまかし、悔いの残るレース展開であったようだ。

還守の皆様、御健闘、御苦勞様。寒さときびしい関門があったが、さすがは日頃の鍛練がものを言う。今後のマラソン継続の力に刺激になったようだ。

完走おめでと。心から御祝いを申し上げます。完走ならず、また来年もあるよ頑張りましょう。

本大会の役員の皆様、御世話になりました。有難うございました。また昨年より倍する沿道の声援感謝いたします。戦い終って打上げ宴会、今まではまさやかに打上げでありましたが、今回は思いきって「アップリ」ときた。こんな楽しい宴会また

とないことだと思えます。普通五時から別の宴会はだんだんにバカ騒ぎで、死闘を繰り返した後の勝利の宴会、ゴール地点であるランナーが言っておりました、まさに死闘であった。死ぬ程苦しかった。

今回はどのランナーも苦しかったらしい、ゆえに宴会が楽しい。こんな宴会どこぞ味わうことが出来ましょうか。

さて、二次会のカラオケ、若い人達が嫌いな歌歌であります。私には正に栄光と挫折そのものでした。若い血潮の予料練も、今はボケ老人、かつての己が姿を思い浮かべ、若い人達には奇異に感じられたでしょうが、涙がしきりと出てきました。年には勝てぬ。

この十年間、趣味としてマラソン、健康のためのマラソンでなく、可能性への挑戦それがためのマラソンであった。プロには引退があるが、私達には引退はありません。今後は趣味、健康のためのマラソン、会員の皆様とお会いするのを楽しみとして、マラソンを続けたいと思えます。会員の皆様よろしく。



千亀利マラソン完走記

栗野原 恭正

号砲一発泉州、千亀利マラソンのスタートだ。我が走ろう会のメンバー総勢9名日頃鍛えたこの体力と精神力寒さもなんのその一斉に走り出す、今回の大会はわたしは今まで走った市民マラソンにしては関門が厳しく皆いつもと違って最初からとばす岸和田城を回って海岸線に出ると風が強くなり途中で2回ほど折り返しがあった。トップ集団と会う、さすがに速い我々はそれから折り返しまで長いこと2回目の折り返しなんかいやになってくる。吉本のタレントや高石ともや氏らの顔もみえる。30k地点で石橋氏が応援に来てくれてバナナの差し入れ有り難かった、それからは正にマラソンの正念場風は強いし足は重くなりやめようかと思っただが沿道の人達が励ましてくれた。やっとゴールの中央公園に入る。ここからまだ1kの長かつ事少し歩いたがなんとかゴール、毎回思う事だ。もう少し練習しとけば良かったと思うが後の祭り、ゴール後は皆で「てっちり」を食べに行く。これがたまらない、完走した人、出来なかった人皆でガヤガヤ、ワイワイ、最後には皆んなの美声も聞きしんどかったが楽しい一日でした。



ホノルルマラソンに参加して

初めてのフルマラソン

松井 裕香

12月15日、午前5時半。大砲と花火を合図にホノルルマラソンのスタートを切った。小学生の頃からの夢だったホノルルマラソン参加が今、現実となって、走りながら涙が出てくる。スタートしてからノキロぐらいはつらいしに走っ

ミニマラソン

第7回ミニマラソン

12月22日(日)、第7回ミニマラソン大会(主催：泉南市体育協会・泉南市教育委員会)が開催されました。好天に恵まれたこの日、泉南中学校運動場を起点として市内を巡るコースで、参加した421名の老若男女による熱気あふれる戦いが繰り広げられました。

- ☆ 競男子の部
 - 1位 岡田盛助
 - 2位 原田和洋
 - 3位 平野善裕
- ☆ 競女子の部
 - 1位 秋山正美
- ☆ 少年男子の部
 - 1位 佐々木高幸
 - 2位 伊藤敬一
 - 3位 加藤春喜
- ☆ 少年女子の部
 - 1位 松原玲子
 - 2位 市川邦子
 - 3位 松垣静世

(敬称略)

ていた友人と離れ、おなれになて走っていることに気が付いた。周りを見ても、人、人、どこにもいない。分らない。任すが、とりあえず、ノキロ地点を目標に走ろう。と思い、ひたすら「ガイヤモントヘット(ノキロ地点)を目指した。少しエリがあたが、まだ余裕をもって走れる。ノキロ地点を、時間2秒で通過した。今度は、ハーフ地点を目指す。ちびっこ頃、夜が明け始め、子供達から年輩者まで、ホノルルの人達も増えた。冷たい水や

スポンジを「がんばっての。」言葉とともに、差し出してくれた。ハーフ地点は、2時間7分位で通過した。か、松にとて、第一の難関だ。未知の距離へ飛び出してから、足が重くて前へ出ない。28キロ辺りから後のランナーとすれ違おうようになった。それぞれに走っている友人、人のことを探すが見つからない。でも、きつと同様に苦しみながらもがんばっている。20キロ地点、3時間5分。第二の難関が襲ってきた。空腹。今更、エイドステーションでは水を飲んできたが、今度は、オレンジジュースを手にとり、空腹をいまかけた。でもやはり疲れと練習不足でペースが落ちた。最後、80メートルのスマイルの文字が見えた時はもう最高だ。先にゴールした人達が声援と拍手でもかえてくれた。フィニッシュは両手を挙げて、レサインでゴールイン。4時間54分0秒。友人、人も全員完走。フィニッシュ、Tシャツを手にし、皆で喜びあった。28キロ、5キロ。とても長かった。足が痛くて重くて苦しい時や、周りが歩いているのを見て、私も歩きたいと思いつながら泣きたい気持ちになった時もあった。

私が完走できたのは、沿道の声援やボランティアの人々があつてだ。いっしょに走った友人と人と走ろう会や市役所の皆の精神的な支えがあつたからこそ、成し遂げられたもの。

この感動をまた味わいたいかう、こみからもフルマランに挑戦したい。

ポルマルマランすばらしい思い出をありがたう。



阪南駅参加までの奮闘記

石橋義春

今回は一チームで参加、最強のメンバーである。透会長にもかなり気をもませたが、二チームはできなかった。

「しめしめ、これで私は安全ばい。走る事はない、評論家に徹しよう」と秘かに思う。

大会一週間前、Y氏が腰を痛めて走れないという連絡。無理は禁物と心よく辞退を受け取る。Y氏が駄目でもM氏H氏がいる。一チームなら我が走ろう会は人材豊富

なり。念の為M氏とH氏に電話をかける。評論家の準備は万たん。ところが二日程前に

ってM氏が足の肉はなれを起し、辞退。雲行きが怪しくなってきた。しかし、まだH氏がいる。しかれども、事態は好天せず、会長より「M氏は事情ができて、走れないかも知れない」との連絡あり。これはいけん、いけん。会長より「石橋君、君走れ」の引導が届く。そんなアホな、四面楚歌。五里霧中。えらい、こうなったら、破れかぶれにや。

大会前日、五ヶ程走る。夜、帰宅すると、会長より「M氏が走れる事になったと連絡が妻にあつた。妻も妻である。会長からの電話に「では、主人は走らなくてもいいですわね♡」と声を弾ませて喜びの一声を放つたそうである。バカ者、それでは、会長にオレの手の内がみえみえではないか、と叱る。妻、日く「アスごめん」。夫婦は似る者である。バカな字丁主を持つと、あれ程、聡明な令嬢でもバカになるのである。

まあ、それはさておき、当日朝、M氏の顔もあり、安心。しかし、O氏腰痛を訴える。もうここまでできたら、オレが走ると心に決める。

会場でK氏と出会うのが遅れて少々心配になったが、何とか無事に参加できた。終つてからの会長の一言「皆、それぞれ責任感があり立派」。耳の鼓膜がびんびん響く。

こういう時こそ、馬耳東風を決めこむ。



お知ろせ

- 一、例会日 二月二十三日 午前九時
- 一、集會場所 新家種河神社前広場
- 一、コース 「青少年の森」前の林道にて上り下りの練習。
- 一、備考 三月例会日 三月八日、三月二十日は同じ集會場所

※三月八日例会日、真鍋さん 透欠席

篠山マラン参加のため、透アカンと思つては、本人もそう思っている。心配なく。

二、ニュース

昨年の泉南市ミニマラン 一般男子の部で岡田さん是一位となられました。皆様、拍手を贈りましょう。

これは、オ六回の際は四位でした。それが一年間、努力、努力、遂にやりました。

